

子どもに釣り経験がある家庭の 84%が環境の話をしている？！

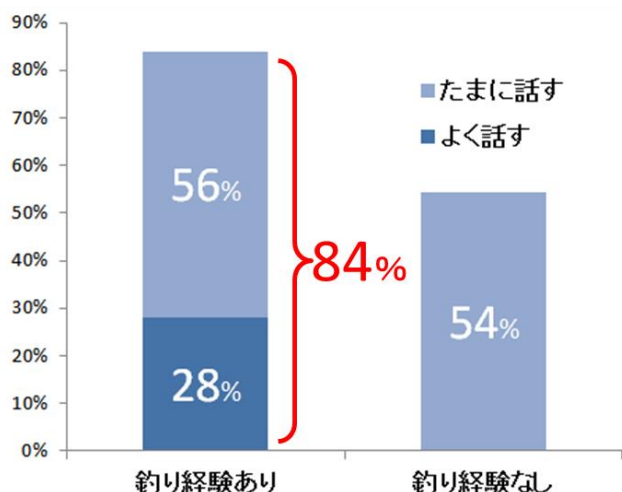
地球環境保全の意識調査を小学4年～中学生の母親に実施

一般社団法人 日本さかな検定協会(東京都千代田区、代表理事:尾山雅一)は、小学校4年生～中学生の子どもを持つ30～40代の母親に調査したところ、地球環境保全、生態系保全に対する子どもの意識の向上に「釣り体験」が有効であることがわかりました。

子どもの「釣り経験」の有無によって、「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」について親子で話す頻度に違いが見られました。子どもに釣り経験のある家庭では、実に 84%が環境に関する会話をしており、子どもが「釣り経験なし」の家庭と比べると30%の差がみられました。特に子どもに「釣り経験があり」の家庭のみが「よく話す」と回答し、その割合は約3割(28%)という結果でした。

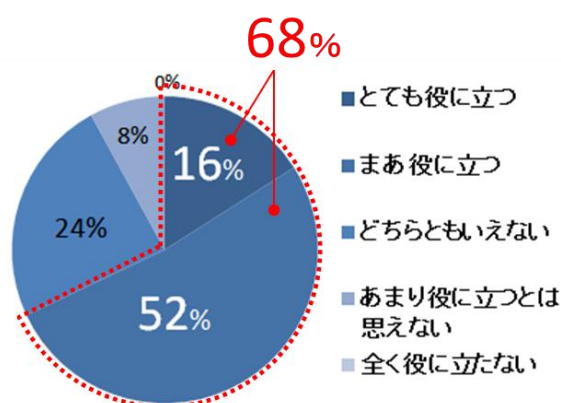
また、釣り経験がある子どもを持つ母親に「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」を学ばせるために「釣り経験が役立つか」と聞いたところ、約7割(68%)が役立つ(「とても役立つ」「まあ役立つ」計)と回答しました。

◆「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」についてお子さまと話をしますか？



◆「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」をお子様には学ばせるために「釣り経験」は役立つと思いますか？

※子どもに「釣り経験がある」と回答した母親が回答



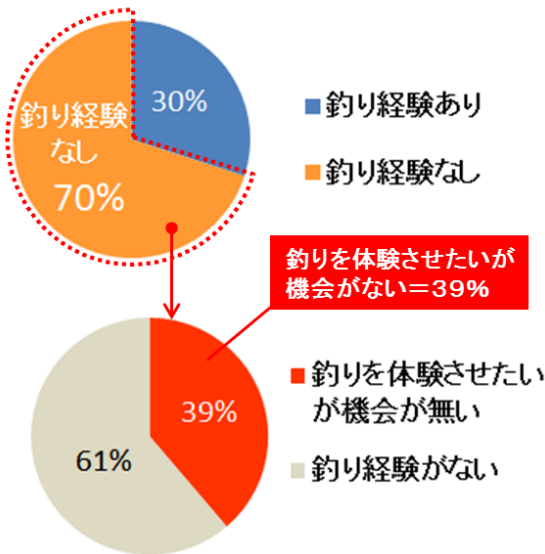
「釣り経験なし」の子どもは7割。母親は釣り経験をさせたいが機会がない現状。

「釣り体験」が地球環境保全、生態系保全に対する子どもの意識の向上に有効であることがわかったものの、実際には子どもに釣りを体験させる機会が少ないという現状が判明しました。

今回の調査で「釣り経験なし」の子どもは7割という結果でした。

「釣り経験なし」と回答した母親の4割(39%)が「釣りを体験させたいが機会がない」と思っていることがわかりました。

子どもの「釣り経験なし」の母親の約4割が「釣り体験させたいが機会が無い」と回答。



◆子どもの「釣り経験」の有無(n=82)

子どもの釣り経験有無では7割が「なし」と回答。

	あり	なし	計
釣り経験	25	57	82
	30%	70%	100%

◆子どもの釣り体験の有無と「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」について親子で話す頻度(n=82)

子どもが「釣り経験あり」の家庭では、「自然環境の大切さ」「生き物の命の大切さ」「エコ(ゴミ、省エネなど)」について親子で「よく話す」が28%と3割近くいたが、子どもに「釣り経験なし」では「よく話す」と回答した家庭は無く、逆に「あまり話さない」との回答が42%という結果だった。

	よく話す	たまに話す	あまり話さない	全く話さない	計
釣り経験あり	7	14	3	1	25
	28%	56%	12%	4%	100%
釣り経験なし	0	31	24	2	57
	0%	54%	42%	4%	100%

【子どもの釣り経験の有無と地球環境意識に関する調査 -概要-】

調査日時:2018年9月18日~9月19日

調査方法:WEB 調査

調査内容:小学校4年生~中学生の子どもを持つ30~40代の母親合計82名に調査。

調査実施:(一社)日本さかな検定協会